



教育センター・育成センター所報

GALILEI

青少年のための科学の祭典2016柏崎刈羽大会(秋)



テレビ放映された「オープニング実験ショー」



「小野寺博士の秘密の実験ショー」



大人気の「あやしく光るびよんスライム」



チャレンジ研究室「化石発見！」

CONTENTS

○巻頭言 P 1

★ 時

柏崎市教育委員会 教育委員 三宮 真美

○教育センターだより P 2

★アクセス（教育研究班） P 2

★プロジェクト K（科学技術教育センター） P 6

★心の窓（教育相談係） P 10

○青少年育成センター通信 P 13

○お知らせ P 15

○所員随想「つれづれ」 P 15

★非日常作り

カウンセリングルーム相談員 本田 郁恵



科学研究おうえんプロジェクト

「海の小さな貝の観察会」での1コマ

平成28年度 第4号（冬号）

柏崎市立教育センター 柏崎市青少年育成センター

時

柏崎市教育委員会

教育委員 三宮 真美



今、私は次男の高校入試と長女の成人式の準備でとても充実しています。と言ってもご想像のとおり大変です。2年前にダブル受験を経験していますが、一人でも受験の大変さはある、いろいろな不安や心配があります。母親の役目としては、体調管理に気をつかいます。時節柄インフルエンザには敏感です。子供の通っている中学校では、先生・生徒が一人でもインフルエンザになると全校マスクになります。生徒もマスクの癖がつき、卒業した高校生は「あっ！マスク忘れた。」という会話になったりするそうです。中学3年生は高校入試、高校3年生は大学入試、中学2年生は修学旅行とみんなそれぞれ体調管理に気をつかう“とき”ですね。

高校生の長男は、小学1年生から現在進行形で学校を一日も休まず登校しています。きっかけは小学1年生の担任から、終業式に学校を一日も休まなかったという賞状をもらったことです。それが嬉しくて、2年生も3年生も続け、そのうち休まないことが自分の自信になり、6年生まで続けました。中学校に行っても変わらず休まず登校しました。長男はすごいんです。熱が出て翌朝には平熱で学校に行っても部活をしても平気なんです。長男の精神力はすごいと思う“とき”があります。

さて、長女の成人式の準備はママ振りに合わせて小物を新しくコーディネートします。ママ振りは母親の振袖を娘が着ることです。娘は出産予定日より6週間早く産まれました。保育器の中で管をたくさんつけられて「娘は大丈夫なのだろうか・・・私に育てられるのだろうか・・・」と不安の毎日でした。そんな私の心配に関係なく娘はすくすくと成長しました。そんな娘が二十歳をむかえたことに感慨無量になる“とき”があるのです。

子供の成長は楽しみなのですが、さみしさの方が今は大きいです。二人の息子は私よりも背が高くなり、夫と並んでもひけを取らない姿に頼もしさを感じますが、やはりまだ一緒に“とき”を過ごしたい・・・過ごしてほしいという気持ちになります。24時間一緒にいたあの頃が今は本当に懐かしく何にも変えられない“とき”だったのです。育児真っ最中はものすごく大変で自分の時間がなーい！なんて思って毎日過ごしていましたが、あの時間が一番幸せな時間だったのだと今気がつきました。

今、三人の子供のわがまを聞いています。長女からは「米がないから送って」。親ですから米以外のものも詰めて送ります。長男は「マッサージして」とお願いしてきます。次男は「ジュースやお菓子を買ってきて」とか言います。子供のわがまを聞ける回数はあと何回でしょう。そんなことを思いながら私は、次男の高校入試と長女の成人式、そして来年の長男の大学入試に向けて頑張ります。大事な大事な“とき”を過ごしながら・・・

ア ク セ ス

■研修講座より

子どもとつくるルーブリックで、授業をデザインする

◆11/9（水）授業づくり講座「ループリックの意味と効果」

講師：関西大学 教授 黒上 晴夫 様

この講座は、田尻小学校を会場にお借りし、学校研学校経営・教育課程研究部と共催で行いました。

講義では、ルーブリックを子どもと教師が一緒につくることによって、子どもが課題意識を具体的にもつことができる、学習時間の効率化が図られる、授業中の自己チェックと修正が可能になるなど、様々な効果があることを先進校の取組から具体的に紹介していただきました。ルーブリックのつくり方、ルーブリックを中核にした授業設計について、演習を交え詳しく教えていただきました。



「総合的な学習の時間」の
ルーブリック案作成演習の様子

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 参加者の感想 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

- ルーブリックを事前に伝えておくことにより、子どもの意欲、パワーが広がり教師も楽になるものという印象を受けました。指導と評価の一体化、お掃除やドリル、自学などからルーブリックの作成を始めてみようかと思います。複式の指導にも使えるかどうか検証してみたいと思いました。
- 深い学びが求められていること、だから評価の視点を変える必要があることがよく分かりました。評価の視点を子どもとつくっていくという営みもよいと思いました。教師の願いを伝え、子どもの願いを表出させ、それらを関連付けて納得解を紡ぎだすことは価値があると考えています。

図書の活用で授業を豊かに！

◆11/16（水）図書館教育講座

講師：燕市児童研修館 元館長 関崎 智弥 様

この講座は、学校研学校図書館教育研究部と共催で行いました。

関崎様からたくさんの図書を持ってきていただき、実際に読み聞かせをしながら図書の紹介をしていただきました。自己紹介をするときに使うと良い本、食育や命をテーマにした授業で使うと良い本など、テーマ別に良書を紹介していただきました。また、いじめに悩んでいる子どもに勧めると良い本や、落ち着きがない子どもに読んであげると良い本なども紹介していただき、子どもの心の状態や特性に応じて本を選ぶことの大切さを教えていただきました。



パネルシアター
『しりとりのだいすきなおうさま』

図書を授業で活用することで、授業が豊かになる可能性を提案していただいた講演でした。

参加者の感想

- 図書室に足を運ばせる工夫を考えるのではなく、もっと身近に楽しみながら本と触れ合える機会をつくったり、場を設定したりすることが大切だと改めて感じました。
- ただ蔵書を増やすにとどまらず、テーマ別に本を揃え、子どもたちに必要なメッセージを伝えるようになりたいと思いました。ありがとうございました。
- 様々な経験豊富な関崎さんのお話をもっともっとお聞きしたいと思いました。絵本を通じていろいろなことを子どもたちに伝えられること、子どもたちの想像力を広げられることなどの大切さを改めて気付かせていただきました。

差別者となりうる人のために人権教育はある

◆11/17（木）同和教育研修講座「見ようとしなければ、見えない差別」

講師：前 上越市立柿崎中学校 校長 神谷 敬二 様

この講座は、学校研人権教育・同和教育研究部及び学校経営・教育課程研究部と共催で行いました。

全校朝会での講話の内容、ハンセン病患者の森元美代治さんが受けた結婚差別、らい予防法廃止の戦いなど、神谷先生が教員時代に力を注いでこられたことや、森元さんにお会いして話されたこと、感じたことを神谷先生の心からの言葉で教えていただきました。また、同和問題の基礎知識についても教えていただきました。



同和問題について熱く語る神谷様

「子どもは小さな大人」「見るようとしなければ、学ぼうとしなければ、差別は見えない」「人権教育は、被差別者のためにあるのではなく、差別者となりうる人のためにある」など、心に響く言葉や改めて考えさせられる言葉をたくさんお聞かせいただきました。日々、子どもたちの前に立つ私たち教師にとって、自分の問題として人権教育、同和教育について学び続ける必要性を実感しました。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 参加者の感想 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

- 差別（いじめも含め）を自分の問題として考えることができるかどうか、また、大人は子どもの教育の問題だと捉えるのではなく、大人自身の問題でもあると気付くことができるかどうか大切なのだと思います。日々の教育活動の中に、人権教育、同和教育があることを痛感しました。
- 同和教育研修の大切さを改めて感じました。「学ばなければ差別は見えない」との言葉は差別解消への重要なメッセージであり、その解消のためには、やはり教育こそ力になると思いました。学び続けたい、差別に敏感になりたいと思いました。

外化と再現で、「深い学び」の実現を！

◆11/29（火）算数・数学研修講座「考える力を育てる算数科の授業」

講師：筑波大学附属小学校 教官 山本 良和 様

この講座は、枇杷島小学校を会場に学校研算数・数学教育研究部と共催で行いました。

示範授業「＋かーを使って（偶数・奇数の性質）」（第5学年）では、山本先生から算数の本質に迫る授業を公開していただきました。また、算数の授業のみならず、他の教科の授業でも使うことができる指名の仕方、発言のさせ方などを、実際の授業場面で具体的に示していただきました。



子どもの考えを引き出し、
大切にする山本先生の授業

講義では、子どもからの問いの発生、考える必然性を生むこと、
どの子どもに外化（出力）・再現（共有）させることなどを大切しながら、授業をコーディネートする力を教師が学び、感動と笑顔あふれる「深い学び」のある授業を子どもに提供していくことの重要性を説いていただきました。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 参加者の感想 ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

- 授業の中で、次の答えはどうなるのだろうという疑問やわくわく感を持ちながら子どもの視点になって考えることができました。その反応も、必然的になるようにコーディネートするという話を聞いて、ハッとさせられました。普段の授業で子どもたちが、「えっ？知りたい！」という気持ちでできるよう頑張りたいと思います。
- 「算数のノートで消しゴムは使わない。自分の考えが消えてしまう。」など、すぐにでも使ってみようと思える様々なフレーズが印象に残りました。

■ スクールオフィス情報

学校閉鎖、学年閉鎖、学級閉鎖が発生した場合の行事等の登録

(1) 学校閉鎖、学年閉鎖が発生した場合の登録

- ・「学校行事の設定」画面から、学校行事または学年行事として閉鎖情報（「〇〇による学校閉鎖」など）を登録します。このとき、「時間」の欄は「指定なし」に、「休み区分」を「休業日」にする必要があります。

(2) 学級閉鎖が発生した場合の登録

- ・必須ではありませんが、どのクラスが閉鎖になっているかがわかるように、「学校行事の設定」画面から、クラス行事として閉鎖情報（「〇〇による学級閉鎖」など）を登録します。このとき、「休み区分」は「設定なし」にする必要があります。
- ・保健管理の健康観察記録の「登録」画面から、当該クラスの全員を出席停止扱いにします。（「停・忌・公欠」をクリックして理由を選択します。）



年度末、年度始め処理のポイント

◆「校務 PC スタートアップテキスト」を活用してください

市外からの転入者向けに、すぐに知っておくべき内容をまとめたテキストを用意してあります。柏崎市の環境がどうなっているか、校務 PC を使い始める際に必要な情報や設定、情報セキュリティポリシーに関する情報など、チェックシートを兼ねた作りになっています。

柏崎市立教育センター コンテンツサーバ

ホーム > スクールオフィス関連資料

MENU

- ホーム
- スクールオフィス
- ポリシー/サポート関連
- 教育委員会資料
- 教育センター資料
- わたくしたちの柏崎

教育センター研修テキスト

資料名	形式・サイズ
校務PCスタートアップテキスト_V3-3.pdf(H28.5.18)	PDF 3.9MB
スクールオフィス・IT環境に関するチェックリスト.xlsx(H25.11.01)	Excel 31KB

教育センターコンテンツサーバの「スクールオフィス」のページに登録してあります

◆クラス替えは年度更新後に行い、クラス数の削減はクラス替えの後に行う

年度内にクラス替えを行ってしまうと、成績の入力や指導要録の作成・出力に影響してしまいますので、年度更新後に行ってください。新年度からクラス数が減る場合は、クラス替えを行った後に減らすようにしてください。

◆転出・退職者の離任処理のタイミングに注意

教職員名簿に離任日を入力すると、その日付に関わらず、保存した時点で離任処理が行われます。以降そのユーザーはログインできなくなりますので注意してください。

管理者が転出する場合は、年度更新前に自分を離任処理しないでおき、年度更新を実行した後に新たな管理者を登録してから、前年度の環境に戻って自分の離任処理を行うとよいでしょう。

◆年度更新時のチェックボックスに注意

年度更新処理を実行する場合は、以下のチェックボックスの扱いに注意してください。既定値のまま処理を進めてしまうと、仮年度で用意しておいたことが無効になる可能性があります。



【仮年度更新を行ってある(仮年度がある)場合】

スクール
オフィス 2.0

年度更新
学校基本情報管理 > 年度更新

2016 年度データから **2017 年度** のデータを生成します。

次年度データ再生成

※すでに、来年度[2017]のクラスデータは作成されています。

☐すでに次年度のマスタが仮年度更新で作成済みです。再作成する。

学校基本情報：クラスマスタ、項目定義、学期構成、校時パターン、学年別授業時数、休祝祭日マス
時数管理：授業カード、年間授業時数マス

☒未就学児童を次年度の1年生とする

ここにはチェックを入れる

ここにはチェックを入れない(入れると、仮年度の登録データが無視され、
仮年度に登録していた情報が全て消えてしまいます)

【仮年度更新を行っていない(仮年度がない)場合】

スクール
オフィス 2.0

年度更新
学校基本情報管理 > 年度更新

2016 年度データから **2017 年度** のデータを生成します。

次年度データ生成

☒未就学児童を次年度の1年生とする

ここにはチェックを入れる

■ 情報関連講習会のご案内

2,3 月に実施される講習会

◆H29.2.7(火) スクールオフィス成績管理小学校指導要録様式 2 作成講習

スクールオフィスの成績管理サブシステムにより、指導要録様式 2 を作成するための設定と、作成手順について学習します。この講座は小学校の教職員が対象です。

◆H29.2.3(金) スクールオフィス成績管理中学校指導要録様式 2 作成講習

スクールオフィスの成績管理サブシステムにより、指導要録様式 2 を作成するための設定と、作成手順について学習します。この講座は中学校の教職員が対象です。

◆H29.2.23(木) スクールオフィス年度更新講習

スクールオフィス管理者向けの講習です。次年度用データの準備手順、学校基本情報管理の年度更新作業、年度末や年度始めに必要な処理について学習します。管理者以外の方が受講していただいても構いませんので、管理者の役割を部分的に委譲する際の参考にいただけます。

◆H29.2.24(金), 3.16(木) 疑問やトラブルに答える フリーQ&A

ICT 活用に関すること、パソコンのトラブルや疑問など、自由に相談できる機会を設けました。他の講座のような事前申し込みは不要ですが、前日までにメールや電話で相談内容をご連絡ください。

プロジェクト K

柏崎刈羽地区科学技術教育センターだより

【研修会・事業の様子】（１０月～１月）

○ 「秋遊び」 １０月１８日（火）

◇講師 柏崎・夢の森公園 中村 拓郎 様

秋の夢の森公園でどのような活動ができるかを、散策しながら研修しました。落ち葉などの自然物を使つての様々な遊びや、子どもたちを連れてきたときのちょっとした配慮などを具体的に学ぶことができました。

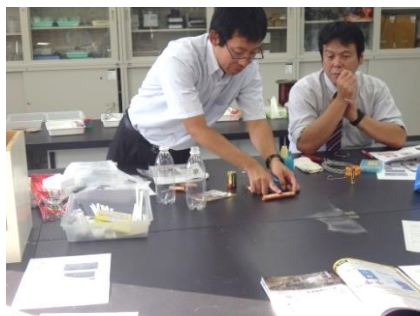


○ 中２「電流と磁界」 １０月１９日（水）

◇講師 第二中学校教諭 紙谷 武史 様 東中学校教諭 近藤 悠司 様

紙谷先生からは単極モーターの紹介を、近藤先生からは簡単なモーターや静電気を利用したジャンピングフィッシュなどの紹介がありました。

また、所員からは指導上のちょっとした工夫などを紹介し、参加者全員で意見交換をしながら研修を行うことができました。



ちょっと簡単なコイルモーター

○ 小５「電流のはたらき」 １０月２１日（金）

指導上注意しなければいけないポイントや、磁石の基礎的事項を研修した後、簡単に作れるコイルモーターとコイル巻き器を製作しました。電気の単元が苦手という参加者が多く、事前の教材研究として有効だったという評価をいただきました。



自作コイル製作器



○ 中１「力の世界」 １１月１４日（月）

◇講師 第二中学校教諭 紙谷 武史 様 東中学校教諭 近藤 悠司 様

紙谷先生からは「エアキャップを使用した浮沈子」を、近藤先生からは「浮力を利用して鉛板を浮かすにはどうしたらよいのか」の実践をご紹介いただきました。また、所員からは水圧観察器や浮力実験器などを紹介し、製作しました。意見交換も活発に行われました。



○ 理科教育講演会 11月16日（水）

◇講師 新潟県中学校教育研究会事務局長
新潟市立白新中学校教諭

山内 伸二 様

「科学的思考力・判断力を養うためのファシリテーションを活用した模擬授業および講演」

21世紀型能力を養うための学び合う授業の実現に向けて、ファシリテーションを活用していくことは有効です。実際に課題を提示し、その問いに対する予想とその根拠を理由づけチャートで可視化した後、チャートの見直しや矛盾、飛躍があることを指摘（反論）して、仮説を明確化するという実習をしました。山内先生のテンポのよい語りと参加者も悩む課題で、あっという間に時間が過ぎ、参加者からは好評を得た一方、もっと十分な時間がほしかったという意見もありました。



○ 小4「もののあたため方」 1月18日（水）

固体・液体・気体それぞれの熱の伝わり方の違いを、実習を通して確認しました。金属棒の熱の伝わり方を正確に調べるための教材を作成したり、水を温めたときの対流を観察する方法について、意見を出し合いながら研修を行いました。参加者からは、熱気球や手のぬくもりで回る羽根を子どもたちと一緒にやってみたいという感想を聞くことができました。



○ 海の小さな貝の観察会 11月3日（祝・水）

◇講師：柏崎貝類同好会 渡邊 譲 様・井上 宗温 様
川村 祐一 様
市立博物館 佐藤 俊男 学芸員

荒天のため海岸での活動は中止となりましたが、博物館で企画展を見学後、センターに戻り微小貝の観察や採取を行いました。初めて微小貝を観察する参加者がほとんどで、ただの海砂にしか見えない中に微小貝があることに驚きと感動を得たようです。



【要請授業】（10月～1月）

- 放射線教育（荒浜小・内郷小）
- 科学クラブ（新道小・大洲小・剣野小・半田小・内郷小）
- 地層観察会（松浜中・北条小・柏崎小・中通小・高柳小）
- 川の観察（北条小）
- 科学実験教室（はまなす特別支援学校）



クラブでカルメ焼き作り（新道小）



鯖石川の観察（北条小）



放射線教育（内郷小）

今年度の科学技術教育センター利用状況（12月末まで）

今年度も残り少なくなりました。予定している当センター主催の研修講座も残すところあと1つです。現段階での利用状況などを以下にご報告します。

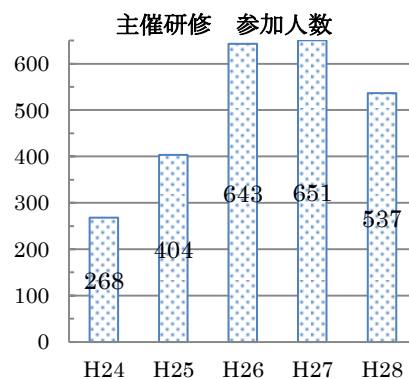
1 研修・科学振興事業

(1)研修講座（教職員向け）

◇主催研修35回（昨年度37回）

※うち2回は1月に実施予定

参加人数は537人（1月分含まず）でした。今年度は「プラネタリウムで授業を！」の研修後に操作技能研修講座を行うことで、実際に先生方がプラネタリウムを操作しながら授業を実践できることをねらいました。また、単元別研修や野外研修では現場の先生方から講師としてご指導いただきました。

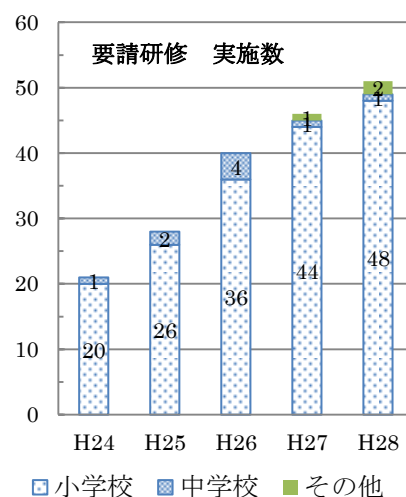


(2)学校等の要請研修

◇要請研修51回（昨年度45回）

12月末現在で51件の要請研修をお受けしました。昨年度よりも増加しています。今年度も科学研究の勧め、クラブ活動、川や地層の野外授業、放射線教育といったように多岐にわたりました。また、PTA行事での要請もありました。

今年度もまだ受け付けておりますので、お気軽にお電話ください。



理科クラブ（内郷小）



海の活動（大洲小）



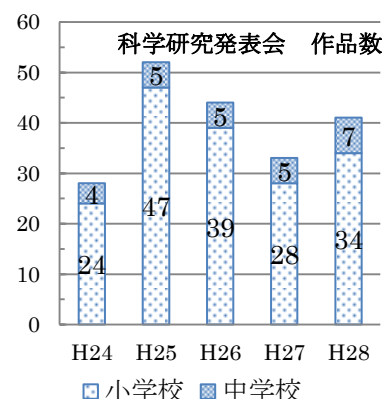
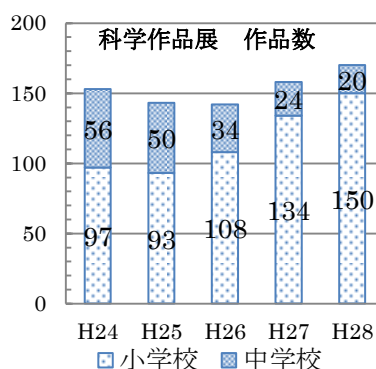
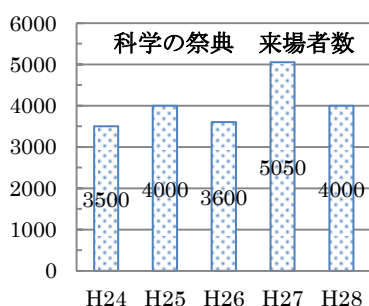
親子活動（日吉小）

(3)科学教育振興事業

◇科学の祭典来場者数4000人（昨年度5050人）

◇科学作品展作品数170点（昨年度158点）・参加校数19校（昨年度22校）

◇科学研究発表会作品数41点（昨年度33点）・参加校数16校（昨年度16校）





科学の祭典



科学作品展表彰式



科学研究発表会

科学作品展や科学研究発表会、科学の祭典（春・秋）等に、多くの児童生徒が参加しました。特に今年度は科学作品展、科学研究発表会への出品数が昨年度を上回りました。各校の先生方のご指導とご協力のおかげと感謝しております。

2 科学教育支援事業

◇問合せ・貸出・提供の総件数 525 件（昨年度 12 月末まで 505 件）

年度当初の理科主任会でお配りした備品一覧表をもとに備品の貸し出しを行いました。お電話一本で必要なものがあるのかを確認できる上、借用簿の記入だけで貸出可能です（借用書は不要です）。

<今年度 利用の多かったもの>



騒音計



ライフジャケット



送風機



静電気発生装置

3 地域との連携

科学の祭典や放射線教育、各種研修などで地域の方・教育関係者の方と連携して事業を進めることができました。柏崎市内には講師としてお招きできる学識経験者の方々がたくさんいらっしゃいます。また、博物館をはじめとする教育施設も多数あります。理科センターはそれらの人材や地域教材を紹介するコーディネーターとしての役割も担っていけるように活動を進めていきます。



科学の祭典でご協力いただいた「STKサイエンスを楽しむ会」の小林様

谷根川溪流ウォークは柏崎・夢の森公園のプログラムを体験。講師は夢の森スタッフの中村様



植物観察会で講師をお願いした柏崎植物研究グループの阿部様



平成28年度 柏崎市立教育センター

教育相談班だより 冬 号

心の窓

No.203

〒945-1355

柏崎市大字軽井川4803-2

TEL 0257 (23) 4591 (代表)

FAX 0257 (23) 4610

E-mail Soudan @ kenet.ed.jp



親支援プログラム (PSP)

教育センターでは、多くの講座や研修を実施しています。その中の一つで、教育相談係がカウンセリングルームの運営の一環で企画・開催している講座を紹介します。

「親支援プログラム PSP」は、ペアレント・サポート・プログラム (Parent Support Program) の略称で、今年度から実施しています。発達障がい、または発達に心配のある児童生徒をもつ保護者の方を対象とした子育て支援プログラムです。子どもの特性を理解し、家庭での言葉掛けや対応を変えることによって問題行動等の改善を目指したり、保護者自身のストレス対処法を身に付けたりすることで、よりよい親子関係を築いていくことをねらっています。各7回の講座を、前期と後期に実施します。10月からスタートした後期はまだ終了していませんが、これまでの講座の中で印象的なことを紹介します。

(1) 学習障がいの疑似体験 ～見る・聞く・読む～

子どもたちは、それぞれに「学びにくさ」「分かりにくさ」「やりづらさ」を抱えています。子どもたちには、どんな風に文字が見えるのか、どのように聞きづらいのか、読みにくいのはなぜかなどを疑似体験します。特性を体験的に理解することで「分かりやすくする方法はないか?」「こんな工夫があればよいのではないか」と、考える機会となります。

(2) 親子関係をよくするために ～メッセージの方法～

子どもとの関係をよくするには、適切な距離やコミュニケーションが必要です。その一つの手法に「アサーション」という話し方があります。これは、相手も自分も尊重する話し方です。相手を尊重しつつ、自分の意見や要求を誠実に率直に対等に表現することを意味します。講座では、いろいろなメッセージを実際に自分で考える練習をします。「I (アイ) メッセージ」という話し方があります。「私」を主語にした話し方です。例えば、「(あなたは) こんな時間まで何していたんだ」を「I メッセージ」にすると、「連絡もないし (私は) ずっと心配だったよ」となります。講座では、実際に「I メッセージ」に置き換える練習をしますが、最初は少し難しいようです。他にも、ポジティブ (肯定的)・共感技法・翻訳技法などがあります。実際に練習してみると、親子関係だけでなく、私たち相談員にも保護者や子どもとよいコミュニケーションをとるための参考となります。

この講座を通して、保護者の方にお子さんへの関わり方のヒントが提供できれば幸いです。私たちもこの講座をはじめ、日々勉強を重ねて、子どもたちの成長に関わっていきたいと思います。

(文責 相談員 松崎藤美)

☆ふれあいルームより☆

かかわることの苦手な通級生が、いろいろな体験を通して、人やものとかかわり、また仲間とかかわり合いながら成長した一年でした。今後も、体験活動の場を大切にしていきたいと考えています。

☆陶芸体験

10月20日には陶芸体験活動に、上下浜の石井工房『美砂華窯』へ行ってきました。



1回目は形作りです。まず下準備として粘土をよく練ります。この段階で手が疲れてしまう人もいましたが、集中して黙々と作業をしました。先生から指導を受けながら、準備のできた粘土を作りたいものにしていました。

みんなの真剣な眼差しから粘土の感触や手先を使ってものを作る楽しさを十分に味わっているように感じられました。次回は色付けをします。どんな作品になるのか、壊れずにできあがるのか、期待と心配の気持ちです。



11月8日、陶芸教室の2回目。初回で成形した作品を素焼きしてもらったので、それに色を付ける作業です。先生の指導のもと、作品を丁寧にヤスリがけして、各々自由に色を付けました。やり直しができないのでとても緊張する瞬間です。あとは先生に作品の焼成をお願いして完成を待ちました。

一週間後の11月15日、作品完成です。まだ窯の中に入っている作品をみんなで協力して一つ一つ取り出していきました。どの作品も



割れることなく、素敵な色合いに焼き上がっていました。みんなそれぞれ自分の作品を手に取り、感動していました。

出来上がった作品は、教育センターの玄関ホールにて1週間程展示をして、来所した方々にも観ていただきました。職員からも「すばらしい!」「きれい!」「使いやすそう♪」等の感想が聞かれました。時間をかけて世界に一つの作品を作り上げる、とても良い体験になりました。



また、上下浜と柏崎の行き帰りは電車を使いました。普段の生活の中で電車を利用することがほとんどないので、自分で切符を買ったりホームで電車を待ちたりすることも、新鮮な体験になりました。





☆そば打ち体験

12月9日、半田コミュニティーセンターの調理室を借りて、そば粉からそばを打つ体験をしました。講師の話をよく聞き、力いっぱい練って、細く切り、腰



のあるそばを打つことができました。打ったそばを手際よく茹で、みんなで食べました。

自分の手でそばを打つのは初めての子どもたちがほとんどでしたが、できたそばを、鴨南蛮汁でいただき、そのおいしさに大満足でした。



☆スケート体験

12月22日、アクアパークのリンクを貸し切り、スケートを思う存分体験をしました。小さい頃に習った、やったのは3年前に一度きりなど経験歴はいろいろでしたが、氷を怖がらず積極的に練習していました。ふれあいルームの通級生は、運動が得意でない子が多いのですが、人目を気にせず仲間と練習できたことがよかったのだと思います。子どもたちの姿を見ると、上達ぶりにびっくりさせられました。

苦手なことや苦しいことも、できるようになれば、楽しさやうれしさ変わっていきます。運動する体験の中で、仲間とかかわる姿がたくさん見られました。



相談係予定



《カウンセリングルーム》

いろいろ体験グループ (SST)

【2月】

- 3日 (金) 16:30~17:30 小学生Aグループ
- 10日 (金) 16:30~17:30 小学生Bグループ
- 17日 (金) 16:30~17:30 小学生Cグループ
- 23日 (木) 18:30~20:00 中学生第1グループ
- 24日 (金) 18:30~20:00 中学生第2グループ

【3月】

- 3日 (金) 小学校A・B保護者会 15:00
- 10日 (金) 小学校C保護者会 15:00
- 15日 (水) 中学校②保護者面談 15:00
- 17日 (金) 中学校①・②保護者面談 15:00

《ふれあいルーム》

【2月】

- 1日 (水) ~ 3日 (金) 通級生面談
- 7日 (火) スキー体験
- 14日 (火) ソフィアセンター
- 16日 (木) バス課外体験
- 28日 (火) 中学3年生通級終了
三年生を送る会

【3月】

- 1日 (水) ~ 3日 (金)
通級生面談
- 13日 (月) ソフィアセンター
- 14日 (火) 保護者会
- 24日 (金) 後期後半通級終了

【4月】

- 10日 (月) 平成29年度通級開始



育成センター通信

0861

柏崎市青少年育成センター

〒945-1355 柏崎市大字軽井川4803番地2

Tel.0257-20-7601 FAX0257-23-4610

ikusei@city.kashiwazaki.lg.jp

育成支援強調月間(7月・11月)の街頭啓発活動

・7月 青少年非行・被害防止全国強調月間 ・11月 子ども・若者育成支援強調月間

柏崎市では全国の強調月間に合わせて、7月と11月に市街地での街頭啓発活動を実施しています。

今年は7月17日(日)どんGALA!祭り、10月1日(土)ほんちょうマルシェ開催日に合わせて行いました。



青少年非行・被害防止全国強調月間とは？

毎年7月、次代を担う青少年の健全育成を願って実施。

県内の青少年をめぐる状況は、児童虐待やいじめ、危険ドラッグ、有害情報に接触する機会の増加、インターネットを通じた被害の多発など、青少年の非行防止、保護の両面において予断を許さない状況。そのために、関係機関が協力・連携して、青少年の非行・被害防止に向けて集中的に実施する。



子ども・若者育成支援全国強調月間とは？

毎年11月に実施。青少年が心身ともに健やかに成長することを願って実施。

ニート、ひきこもり、不登校の問題や、少年非行、いじめの問題、児童虐待、児童ポルノなど子どもが被害者となる事件が後を絶たない。解決のためには社会全体で取り組む必要がある。多様で複合的な問題には、行政、青少年の育成支援に関わる諸団体等が連携して取り組むよう集中的に実施する。



平成28年度 青少年を取り巻く社会環境実態調査結果

調査の概要

青少年を取り巻く社会環境の実態を把握し、今後の青少年の非行防止活動に資するために、7月の「青少年の非行・被害防止全国強調月間」の取組の一環として実施しました。

調査方法

青少年育成委員が巡回調査を実施しました。

実 態

※－印は、今年度実施しない。

年度 調査項目	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	前年比
酒類自動販売機台数	13	9	9	－	5	－	4	－
タバコ自動販売機台数	172	159	152	－	103	－	83	－
酒類販売のコンビニ店数	31	36	36	35	34	40	36	－4
タバコ販売のコンビニ店数	35	36	36	35	34	40	36	－4
有害ビデオ自動販売機台数	11	15	14	14	14	14	10	－4
一部有害図書販売書店数	10	8	7	7	7	7	6	－1
一部有害図書販売コンビニ店数	34	34	35	33	33	40	36	－4
ゲーム場数	8	6	6	5	－	3	－	－
エアースoftガン取扱店数	4	4	4	4	－	2	－	－
大人のおもちゃ販売店数	1	1	1	1	－	1	－	－
成人向けビデオ販売書店数	6	5	4	5	－	5	－	－
成人向けビデオ貸出店数	5	5	5	5	－	5	－	－
カラオケボックス店数	4	4	4	－	3	－	3	0
マンガ喫茶・インターネットカフェ	1	1	1	－	1	－	1	0

コンビニエンスストアの店舗数は昨年より減少していますが、新設・移転等により大きな店舗が増えています。各コンビニエンスストアでは、いわゆる「有害図書」の陳列規制に従って販売しているようですが、どの店舗もトイレ入り口付近に設置されており、トイレ待ちをする青少年の目に触れることが気になるようです。また、隔年でタバコや酒類の自販機の実態調査を行いました。高齡化による閉店と同時に自販機の設置や販売をやめた店舗がありました。コンビニの台頭も、これらの台数を減らす要因になっているようです。

お知らせ

青少年育成委員会冬季研修会

日時：3月11日(土) 14:00～16:00
会場：市民プラザ 学習室201、202
内容：ワークショップ「青少年の理解と親・子への声かけ」

講師：マミーズネット 中條 美奈子 様
主催：柏崎市青少年育成委員会

各地区から選出された「青少年育成委員」の活動のための研修として開催しますが、席に余裕がありますので、教職員など、参加ご希望の方は下記までご連絡をお待ちしています！

柏崎市立教育センター内「青少年育成センター」
電話 20-7601 FAX 23-4610
Mail: ikusei@city.kashiwazaki.lg.jp

教育センター・青少年育成センター 所内会議の様子

教育センターと青少年育成センターでは、毎月最初に全員参加の「合同所内会議」を開催しています。

内容は、所長から両センターの管理運営について話があり、各担当が1カ月の予定を発表します。

この後「コンプライアンスミーティング」として不祥事の事例紹介や事務処理ミスの削減、交通事故防止などの話があります。

ここまではどこの職場でも実施している課内会議と同じですが、昨年度から会議の終わりに「**豆知識コーナー**」を設けました。

短時間ですが、業務に関係ない分野でも構わないので「印象に残り、家族、酒席などで話題にできるテーマ」として、所員が毎月交代で話をします。

今まで「市外出身者のふるさと紹介」「趣味のコレクションの紹介」「書道の紹介」「土木業界の専門用語紹介」「海外旅行の紹介」「全国のお城の紹介」「建築意匠の紹介」など、所員の意外な趣味や経歴などを知ることができ、親睦・融和・相互理解という、予想しなかったうれしい効果となっています。

皆さんの職場でもいかがですか！



所 員 随 想

非日常作り

教育相談係 相談員 本田 郁恵

変化のない毎日は安定感や安心感を与えてくれます。でも、変化がなさすぎると退屈さや物足らなさを感じて、変化や刺激が欲しくなることがあります。

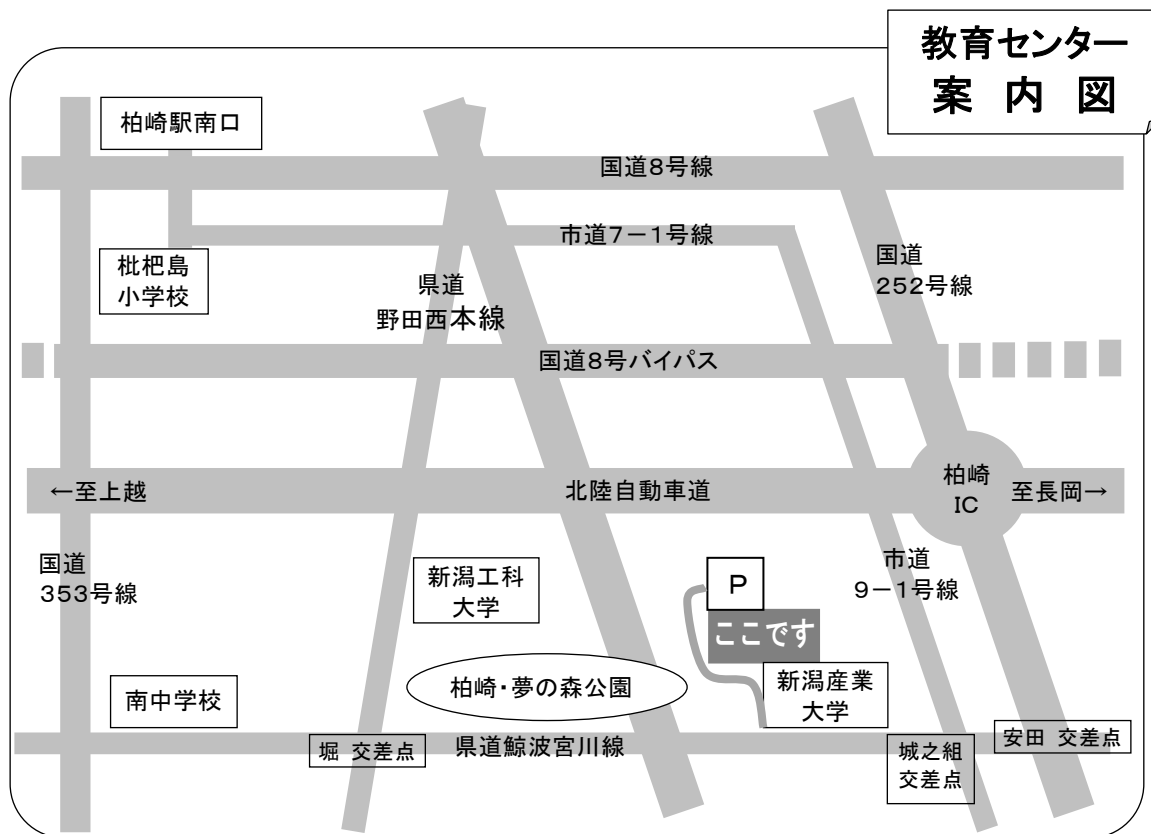
私は非日常を体験したい時、映画を見てその世界に飛び込みます。ファンタジー、サスペンス、…時にはホラーの世界にも行って、現実の世界からしばらくいなくなっています。ですが、ある日、映画でも気分転換が出来ませんでした。いつもと全く違う体験をしたいという気持ちが非常に強くあったのです。そこで、まず旅行が浮かびました。しかし、時間もお金もないし…ということで少し悩みます。そして、いいことを思いついた私はさっそく材料の調達に出かけました。

買い物時間は30分程度です。買ってきたのは、入浴剤と薔薇数本だけです。時間もお金もそれほど使っていません。ですが、楽しむには十分でした。

まず、お風呂に入浴剤を入れました。次に、乳白色に染まった水面に薔薇の花弁と葉を散らしました。平凡なお風呂場が映画で見るとお洒落なお風呂に早変わりです。白い水面に赤と緑はよく映えます。お湯があふれると何枚かの花弁も一緒に流れ落ちて、ひらひら回りながら排水溝に乗りました。薔薇風呂がすっかり気に入った私は、お湯が冷めるまでずっと浸かっていました（※入浴後は、花弁と葉を集めて絞り、窓際に飾りました）。

この体験から、アイディア一つで平凡な日常は簡単に変えられるんだと実感しました。また退屈になった時、工夫をして非日常を作り出し、特別な時間に塗り替えようと思います。





〒945-1355 柏崎市大字軽井川4803番地2（新潟産業大学キャンパス内）

※路線バスは、柏崎駅南口から新潟産業大学行きをご利用ください。

※車でお越しの方は、キャンパス内では徐行をお願いします。

教科書センター利用案内

柏崎刈羽の小中学校で使用している教科書のほか、全教科書会社の小中学校の教科書各2冊、高等学校の教科書各1冊を備え付けています。どなたでも閲覧することができるほか、小・中学校の教科書は貸し出しも行っています。

教育センター研修講座等のついでや、長期休業期間など、お気軽にご利用ください。

教育センター代表TEL：0257-23-4591

代表FAX：0257-23-4610

E-mail：k-center@city.kashiwazaki.lg.jp

教育研究班・情報教育TEL：0257-23-1168

E-mail：kec@kenet.ed.jp

教育研究班（科学技術教育）TEL：0257-20-0212

E-mail：kagaku@kenet.ed.jp

教育相談班（カウンセリングルーム）TEL：0257-32-3397

E-mail：soudan@kenet.ed.jp

教育相談班（いじめ不登校電話相談）

TEL：0257-22-4115

青少年育成センターTEL：0257-20-7601

E-mail：ikusei@city.kashiwazaki.lg.jp

教育情報支援システム URL：http://kedu.kenet.ed.jp

平成29年1月発行